

15年9ヶ月…早すぎる解散は本当に良かったのか
～信頼からの撤退③横交川和支部解散大会～

この3月31日で、港北ニュータウン営業所が廃止になります。1991年6月25日に開業し、11バス営業所中一番新しい営業所が、15年10ヶ月という短い期間で、その役目を終わることになります。

～来賓にも愛された川和支部～

3月24日、都筑区の港北ニュータウン営業所体育館において、「横交川和支部解散大会」が15時30分より行われました。

杉山法対部長の司会で始まり、主催者を代表して有山支部長が挨拶を行いました。

挨拶の中で有山支部長は「開設16年で幕を閉じるのは非常に残念です。大きな思い出としては527合理化などが挙げられますが、支部運営志半ばで軌道に乗ってきたところの解散は辛い、横交のために、みんなのために解散をするということなので、誇りに思っていて頑張っていこう」と解散の淋しさを語りました。

横交からは大槻委員長が来賓として出席、委員長は「大会はおめでとうという言葉が出るが今回は、残念としか言いようがない。しかし、川和で培ったものはどこへ行っても通用します。胸を張って頑張ってください」と激励の挨拶がありました。

数々の来賓の方が、川和支部との思い出を語っていました。首藤信彦前議員などは、「川和パート2があっても良いと思う」ということを語り、労金の支店長などは、思い出を語りながら思わず涙を流すなど、来賓の方々にも愛される支部だった、というのは素晴らしいことでしょう。

～解散を誇りに思い、前を向いて頑張ろう～

大会は、一般経過報告、議案については「大会宣言（案）」を豊田書記長が一括して報告され、確認されました。その後、各組合役員がひとり一人挨拶を行い、最後は有山支部長の団結ガンバローで、笑顔で大会は終了しました。

大会が終了した後の一言は、みんな口を揃えて「本当に終わっちゃったねえ…」とつぶやくように言っていました。これで31日の廃止を待つだけとなり、4月1日からは、全員の営業所に散ることになります。

川和支部の全員が結集することは、もう二度とありません。昨年の野庭支部、そして川和支部、両支部の方々が感じた無念の思い、本当は支部を残していたいんだ、という思いが伝わってくるのです。こういう淋しさが今後まだ続きます。支部の解散は、人々の思いを残して解散しますが、今度は新天地が自分の支部です。有山支部長の言葉通り、解散を誇りに思い、前を向いて頑張ってくださいと思います。

～港北ニュータウン営業所車両係も廃止に～

営業所廃止と同時に、車両係も廃止になります。自工支部の歴史の中でも「前代未聞の出来事」（自工支部機関紙「車輪」281号より）であり、車両工場が廃止になるということは、やはり淋しい出来事です。自工の方々は、異動については定期的にありますが、工

場の廃止というのは、ただの異動とは違う、無念の気持ちがあることでしょう。

15年10ヶ月…本当に早すぎる解散でした。役割は地下鉄4号線へ、ということなのでしょうが、営業所の廃止による影響は、すでにららぽーと対応で出てしまっています。この廃止は本当に良かったのでしょうか。跡地は有効活用すると言っていますが、市民の利便性と有効活用という収入、結果的にどちらの方が良いのでしょうか。

交通局の計画が、一過性の計画でないことを祈ります。こんな綺麗な営業所を潰し、こんな若い支部の目を摘むのですから…。

(横交教宣部)